

箕面市の色彩基準は、この山なみ景観の鮮やかさを超えない範囲の中で、色あいや明るさには一定選択の幅を持たせた基準となっています。建築様式の多様化等によって、自然発生的な秩序が失われつつある昨今において、「緑豊かなで良好な住宅都市」といった箕面らしさを守るために、緩やかな秩序を生み出しています。

■ひとの色

景観計画では、地域の方々自らが、その地区の特性に応じたまちのルールを定めた地区を「都市景観形成地区」として、重点地区に指定しています。

この一つに「小野原西地区」があります。

小野原西地区は、箕面市の特定土地区画整理事業として道路や公園等の公共施設も含め、一体的に整備されたまちで、まちづくりの初期から、地権者の皆さまと行政がまちのあるべき姿や方向性を十分話し合い、まちづくりを進めました。

今まさにまちが育っていているという状況ですが、穏やかなトーンの色彩と敷地のみどりが調和した落ち着いた雰囲気のある住宅地区を中心に、中央の幹線道路沿いには、生き生きとした色使いによる商業施設が建ち並び、一定の秩序と個性がうまく調和したまちなみが形成されています。



また、おもわぬところで「小野原西らしさ」も生まれています。

当地区内には、全国的に有名なお洒落なカフェが建ち並び、連日賑わっています。駅前でもない場所で、この様に大手の有名店が拳って出店されることは非常に珍しいそうです。

私も休日に妻を誘ってカフェに行ってみたのですが、どのお店も順番待ちでした。やっと入れた店内を眺めると、学生、

サラリーマン、ご年配のご夫婦等、さまざまな方が利用されていましたが、皆さんお洒落な感じの人ばかり。妻が一言「お洒落まちにはそんな人が集まるのね、もっとオシャレしてきたら良かった・・・」人が暮らすために住宅やお店があり、それが集まってまちになる。カフェの窓からまちなみを眺めていると、まちの色とはひとの色、改めてそんな気持ちになりました。

■色々あるから面白い

景観とは私たちの暮らしが映し出された姿そのものです。個性も大事ですが、他者への気遣いの心を持つ人が多く集まるまちは、自ずと良い景観が生まれると思います。

このことは市役所がルールを造っただけでは到底なしえませんが、市民一人ひとりがそれぞれの地域で、井戸端会議の時でも良いので、少しまちなみについてお話されるところが大事なことです。

もうすぐ桜の季節、まちは色とりどりのランドセルに夢と希望を詰めて歩く子どもたちでにぎわいます。皆さんもご家族やお友達と、まちに繰り出されて色んなまちの魅力について語ってみませんか。

みのおの少し変わっている石垣 Part 2

高岡 公昭

普通、神社や仏閣の石垣は整然とした布積みや、整層切石積み（野面積み）のものが多く、材料も花崗岩類で、優白色の人が多いと思われる。

ところが、瀬川神社の石垣は写真にみられるように、整層切石積みの立派なものであるが、材質は花崗岩でなく、優黒色の閃緑岩類である。しかし笠石（縁石）や、その上に建つ玉垣は、優白色の花崗岩である。

神社の本殿前の庭石も閃緑岩であるので、何か特別な意味があるのか、神社の人に尋ねてみたら、「石屋がやった事で別に意味はない」と云われた。

箕面市内では旧東能勢の花崗閃緑岩や、石英閃緑岩の石垣はよく見掛けるが、瀬川神社の様な優黒色の石垣は少ないと思われる。

唯、船場西 1丁目の会社寮 ?の石垣は、見事な優黒色の閃緑岩類であるが、他所では余り見掛けないようである。もう一ヶ所、西宿 3丁目で黒色の間知石の谷積みの、高い石垣を見掛けたが、よく見ると、砂粒か碎石を固め、黒色に着色した人工間知石であり、がっかりした。



瀬川神社の石垣

本殿前の庭石（閃緑岩）



國久 修一

私が箕面へ来たのは平成16年 4月で、比較的新しい住民です。以前は奈良県河合町の西大和ニュータウンに、30才代から 30 年近く住んでいました。斑鳩の郷法隆寺は歩いて 30 分位のところで、よく散策しました。

箕面を終の棲み家を選んだのは、妻と二人でハイキングに箕面の滝へ来た時に、何気なくこの辺の住処が良いかな、と語り合いながら歩いていて、フト近くの不動産屋に立ち寄って状況を聞いた事が切っ掛けでした。後日手頃な物件を紹介され、箕面は交通、買物、医療等、生活環境が良いと知って、現在のマンションに引越して来ました。



徐々に箕面の街に馴染んで来ますと、わたしが魅力を感じる場所が、幾つか出てきました。桜並木通りに繋がる町並み、山並みと田園風景です。特に体調不良で箕面市民病院へ1ヶ月入院していた時、窓から眺めた萱野近辺の田園と北摂の山並みに続く市街地の風景は、病気で不安な気持ちを大変癒して呉れました。

前の住まいで、隣組に著名な女流陶芸家が居られましたので、入門して 5年程習いましたが、引越しとともに、遠のいて仕舞いました。また若い時からラグビーに親しみ大学、社会人、クラブチームと、50才位迄グラウンドを駆け廻っていましたが、引退して体力が目に見えて落ちました。

こんな折りに、「みのお市民まちなみ会議」に参加して、タウンウォッチングなどで、箕面の町の魅力を学習する機会を得て、ますます箕面が好きになり、この町を誇りに思える生活をこれからも続けていきたい。



街のにぎわい……祭り

「みのお市民まちなみ会議のパネル展」を私たちは、永年開催し続けて来た。その展示の根底に流れる考え方は、市民に「箕面の美しさ」を伝え、みんなで景観を守る意識を醸成することを願っています。

街並み写真でも、樹木の写真でも、山並みや田園風景でも、多くの市民が「美しい」と感動の目でご覧頂くように、会員は工夫し、年中カメラを携えて、街を歩き廻り、撮影した集大成をパネル展で発表しています。

しかし、プライバシー保護の問題もあり、あまり人物の写らない場面が、多くなり勝ちでした。今回のパネル展を企画する



に当たり、街の賑わいを入れたらとの意見が上がった。実際に街並みと賑わいを両立させて、一つの画面に纏めることは、なかなか難しい問題と判った。

議論より、タイミングがあるので、取り敢えず撮影を先行させて撮り溜めた。

地藏盆、盆踊り、秋祭り、ハロウィン、節分の火渡りなど、箕面には多くの祭りや行事が行われていることが判った。

殆どが古くから地域で守り続けられて来たものだった。地藏盆、盆踊り、秋祭りなどは、催の日時が同じ場合が多く、各所を飛び回り撮影に苦労した。中にはタイミングを失した所も出た。

かくして撮った写真を並べてみると、にぎわいは街並み景観とどの様に繋がるのか、議論が再燃した。祭りなど街のにぎわいも、大きな意味で景観だとい





う意見と、やゝ厳格に考える意見が交錯した。しかし景観のような抽象的概念に、誰れも結論は出せなかった。そこで、パネルにして展示し、ご覧になる皆さん方の反響をみることにした。パネル製作段階で、ご覧になった市民から「こんな祭りや行事が、何処で行われているのか、全く知らなかった。昔ながらの古い面白い行事が、箕面でも行われているのだねえ」とのお話

を聞き、私たちは多くの市民が、此の祭りや行事のパネルがきっ掛けとなって、街を廻って頂き、街を身近に感じて頂く良い機会だと思った。

箕面の街をよく知って頂き、街の在り方を是非考えて頂きたい。

パネルは楽しさや、にぎやかさを表現する工夫をした。

(大町 凱彦)



3 D 箕面の街道風景

— 皆さん驚きましたか —

まちなみ会議のパネル展に、今年は新しい試みの展示物を出しています。従来、私たちの展示は、まちの美しさを表現する為、撮影者も年々限定的になり、しかもコンピューター技術が向上している為、非常に美しいパネルが展示されるようになってきました。一部にまちなみ会議のパネル展は、写真展と思って居られる方も出る始末です。

私たちの願いは、単に写真の出来ばえを発表するのではなく、箕面の街並みの美しさ、市域が長い地形のため、東西の交流の少ない街なので、隠れたみどり豊かな景観を発掘し、多くの市民と共有すること、それが愛すべき箕面の創成につながると考え、活動を続けています。

しかし、展示方法にも工夫しなければ、ご覧になる方々へのアピールする力にも、限界があると考え、今回立体風景写真 2点を展示しました。名づけて 3D箕面の街道風景「西国街道 — 小野原東」と「箕面街道 — 中の坂」です。手に持ってご覧下さい。

如何ですか？ 3D画面に見えましたか、小野原東については、市道小野原・山田線の

小野原南交差点から、東の常夜灯を眺めた風景です。中の坂は、坂の登り口から西江寺方向を見上げる坂の風景です。

原理は判っていましたが、実際に作ってみると、いろいろな苦心がありました。まず、箱の大きさを、どの位にするか、大きさの異なる空箱を、幾つも検討しました。写真も一枚の写真では無く、最奥の写真を撮った位置



と、最も手前となる写真を撮って、位置を定め、その間を等間隔に数枚写真を撮り、その距離を箱の奥行きに等間隔に仕切りを作った。仕切りの枚数を幾つにするか、仕切りの切り穴をどの位の大きさが良いか、試行錯誤の連続でした。ほぼ出来上がってみると、箱の中が暗く写真が良く見えない。そこで豆電球を付けることを考えましたが、会場で皆さんに手に持って見て頂くには、電線やら電池で重くなりそうなので、工夫を重ね手軽な明かり窓を付けました。窓の大きさも何度もあけて決めました。

小野原東と中の坂では、仕切りの切り方が異なっています。小野原東は街道が平坦な道ですが、中の坂は上りの急坂です。坂の感じを出す為に、何度もやり直し、やっと完成しました。



ご覧頂き、これまでの表現と異なった街道の風景を、感じて頂ければ大満足です。

箕面のまちなかのみどりを探して

箕面市の広報紙「もみじだより」の裏表紙に、昨年5月から一年間「箕面のまちなかのみどりを探して」と題して、写真と説明文を提供してきました。多くの市民のみなさんもご覧頂いたと思います。

皆さんもお感じのように、箕面は至る所にみどりがあます。市内の何処からでも眺められる北摂の山並み、まだまだ残る田園、家々の生け垣など、非常にみどりが豊かです。

しかし、そんな中で生活していると、環境に慣れてしまっていて、みどりの持つ優しさ、暖かさ、潤い、ホットする安堵感などをだんだん感じなくなります。

そこで、私たちは敢えて、箕面のまちなかのみどり探しを提案し、皆さんが日頃意識から薄れている、いろいろなみどりを発掘し、お伝えしようと、各月テーマを定めて掲載しました。「指定樹木」「街路

